

# 償還時 目標設定型ファンド1903

米ドル建て受益証券／豪ドル建て受益証券  
ケイマン籍契約型公募外国株式投資信託（単位型）

## 運用報告書 （全体版） （償還報告書）

作成対象期間  
第5期

（ 2023年1月1日  
）  
（ 2023年12月29日  
信託終了日 2023年12月29日 ）

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストー償還時目標設定型ファンド1903（以下、「ファンド」または「サブ・ファンド」といいます。）は、このたび、償還の運びとなりました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。ご愛顧を賜り誠にありがとうございました。

#### ◆管理会社

シティグループ・ファースト・  
インベストメント・マネジメント・リミテッド

#### ◆代行協会員

シティグループ証券株式会社

# 目次

	頁
I. ファンドの設定から前期までの運用の経過	1
II. 運用の経過等	5
III. 直近 10 期の運用実績	9
IV. ファンドの経理状況	12
V. ファンドの投資信託財産運用総括表	27
VI. お知らせ	29

(注1) 米ドルおよび豪ドルの円換算額は、それぞれ便宜上、2024年4月30日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル=156.90円、1豪ドル=102.96円）によります。以下同じです。

(注2) サブ・ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設定されていますが、米ドル建て受益証券は米ドル建ておよび豪ドル建て受益証券は豪ドル建てのため、本書の金額表示は、別段の記載がない限りそれぞれ米ドルまたは豪ドルをもって行います。

(注3) 本書の中で金額および比率を表示する場合、四捨五入してあります。従って、合計の数字が一致しない場合があります。また、円貨への換算は、本書の中でそれに対応する数字につき所定の換算率で単純計算のうえ、必要な場合四捨五入してあります。従って、本書中の同一情報につき異なった円貨表示がなされている場合もあります。

(注4) 本書の中で、計算期間（以下「会計年度」ともいいます。）とは、1月1日に始まり同年の12月31日に終了する1年をいいます。ただし、第1会計年度は、2019年3月29日から2019年12月31日までの期間をいいます。なお、サブ・ファンドの運用開始日は、2019年3月29日です。

(注5) 本運用報告書（全体版）において別段の定義がある場合を除くほか、サブ・ファンドに係る交付運用報告書において定義される用語および表現は、本書において同一の意味を有します。

サブ・ファンドの仕組みは、以下のとおりです。

フ ァ ン ド 形 態	ケイマン籍契約型公募外国株式投資信託（単位型）
信 託 期 間	<p>すでに終了している場合を除き、サブ・ファンドは、（i）受益者に3か月前までに通知を行うことにより、管理会社はその単独の裁量においてサブ・ファンドの終了を決定する日、または（ii）償還日のうち、最も早く到来する日に終了します。</p> <p>償還日は、2157年10月21日または管理会社および受託会社が販売会社と協議の上合意したこれよりも早い日をいいます。</p> <p>また、管理会社が（i）ボルカー・ルールに従いサブ・ファンドの運用を継続すること、または（ii）サブ・ファンドの投資目的を達成することのいずれかが合理的に実行不可能であり、もしくは実行不可能となる見込みであるとして、管理会社はその単独の裁量により決定する場合（本インデックスおよび/もしくは本債券へのエクスポージャーの獲得が不可能となったか、もしくは有利な条件でこれを行うことが不可能であると管理会社が決定する状況を含みます（ただし、これらに限られません。）。）、管理会社は、受益者にその旨の通知を行うことにより、サブ・ファンドを終了させることができます。</p> <p>サブ・ファンドは2023年12月29日に償還いたしました。</p>
繰 上 償 還	<p>サブ・ファンドは、以下のいずれかの事項が最初に発生した場合に終了します。</p> <p>（a）サブ・ファンドが違法となるか、または受託会社もしくは管理会社の意見において、サブ・ファンドを継続させることが実行不能であり、経済的ではなく、得策ではなくもしくはサブ・ファンドの受益者の利益に反する場合</p> <p>（b）前記「信託期間」の項に規定される日付または条件に該当する場合</p> <p>（c）任意または強制的買戻しのいずれかを問わずサブ・ファンドのすべての発行済受益証券が買い戻されている場合</p> <p>（d）サブ・ファンドの受益者がサブ・ファンド決議により決定した場合</p> <p>（e）信託証書の日付より開始しその149年後に満了する期間の最終日である場合</p> <p>サブ・ファンドが終了した場合、受託会社は、サブ・ファンドの受益者全員に対して、速やかに当該終了の通知を行います。</p>
運 用 方 針	<p>サブ・ファンドの投資目的は、受益証券の各クラスに対して、次に掲げるものに連動するリターンを提供することでした。</p> <p>（a）満期日において、受益証券の各クラスに対して目標償還水準を達成することを目指すポートフォリオ（安定運用部分）</p> <p>（b）受益証券の各クラスに対して本インデックスに対するエクスポージャーを提供するポートフォリオ（積極運用部分）</p> <p>（注）「満期日」とは、2023年12月29日または管理会社が決定するその他の日をいいます。</p>
主 要 投 資 対 象	本債券およびブラックバック・コールオプション取引

<p>サブ・ファンドの運用方法</p>	<p>安定運用部分は、受益証券の各クラスの関連する本債券（すなわち、米ドル建て受益証券に関して米ドル建て債券および豪ドル建て受益証券に関して豪ドル建て債券）に対するエクスポージャーを提供することにより、満期日において受益証券の当該クラスに対して目標償還水準を達成することを目指します。各本債券は、債券発行会社により、満期日より前の本債券の想定される償還価格よりも割引かれた価格で発行されました。各本債券は、満期日より前に満期の日を迎え、その満期の時に受益証券の当該クラスに係る目標償還水準を達成するように設計されています。</p> <p>積極運用部分は、受益証券の各クラスの投資者に対して、ルックバック・コールオプション取引を通じて、本インデックスに対するエクスポージャーを提供します。</p> <p>管理会社は、いずれの場合においても、後述の（a）および（b）の手法によって、本インデックスに対するエクスポージャーを得ることを目指します。</p> <p>（a）米ドル建て受益証券の計算において、米ドル建てルックバック・コールオプション取引を締結することによります。</p> <p>（b）豪ドル建て受益証券の計算において、豪ドル建てルックバック・コールオプション取引を締結することによります。</p> <p>プレミアムは、各ルックバック・コールオプション取引に関して、受益証券の関連するクラスに帰属する資産から支払われます。</p> <p>ルックバック・コールオプション満期日において、関連するオプションを行使すると利益が出る場合、当該オプションは自動的に行使され、対応するルックバック・コールオプション取引は、決済時に、以下のとおり計算される金額に従い現金決済されます。</p> $A \times B \times \text{Max} \left( \left( C \div D \right) - 100\%, 0 \right)$ <p>A：ルックバック・コールオプション満期日における計算金額  B：連動率であり、米ドル建て受益証券に関して 75 パーセントおよび豪ドル建て受益証券に関して 51 パーセント  C：最大インデックス水準  D：条件決定日におけるインデックス水準</p> <p>（注1）「ルックバック・コールオプション満期日」とは、2023年12月18日または管理会社とルックバック・コールオプション・カウンターパーティーが合意したその他の日をいいます。</p> <p>（注2）「計算金額」とは、受益証券の関連するクラスに適用ある発行価格に対して、受益証券の関連するクラスの計算時点における発行済受益証券の口数を乗じた額をいいます。</p> <p>（注3）「最大インデックス水準」とは、観測期間中に観測される適用インデックス水準のうち最も高いものをいいます。疑義を避けるために付言すると、適用インデックス水準は、観測期間中の各インデックス評価日において観測されることが予定されています。</p> <p>（注4）「適用インデックス水準」とは、各インデックス水準をいいます。</p> <p>（注5）「インデックス水準」とは、各本インデックスに関して、インデックス・スポンサーによりまたはインデックス・スポンサーを代理して公表される、各インデックス評価日における当該本インデックスのクロージング時の水準をいいます。</p> <p>（注6）「インデックス評価日」とは、観測期間中に発生する条件決定日ならびに（1）インデックス営業日および（2）インデックス取引日の双方にあたるそれぞれの日をいいます。</p> <p>（注7）「インデックス・スポンサー」とは、シティグループ・グローバル・マーケッツ・リミテッドをさします。</p> <p>（注8）「条件決定日」とは、2019年4月1日をいいます。</p> <p>（注9）「インデックス取引日」とは、次に掲げるすべての取引所が通常取引の立会時間のために営業を行うことが予定されている各日をいいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）フランクフルト証券取引所</li> <li>（2）ニューヨーク証券取引所</li> <li>（3）シドニー証券取引所</li> <li>（4）東京証券取引所</li> </ol> <p>（注10）「観測期間」とは、条件決定日からルックバック・コールオプション満期日までの期間（条件決定日とルックバック・コールオプション満期日の両日を含みます。）をいいます。</p>
---------------------	---

<p>主 な 投 資 制 限</p>	<p>管理会社は、サブ・ファンドのために以下に掲げることを行いません。</p> <p>(a) 取得の結果として管理会社が運用するすべての投資信託が保有する投資会社ではないいずれかの会社の議決権付株式の総数が当該会社の全発行済議決権付株式の50パーセントを超える場合において、当該会社の株式を取得すること。</p> <p>(b) サブ・ファンドによって保有される上場されていないか、または容易に換金することができない投資対象の価額の合計が、当該投資対象の取得の結果、当該取得の直後に直近の純資産価額の15パーセントを超えることとなる場合において、上場されていないか、または容易に換金することができない投資対象を取得すること（ただし、かかる制限は、当該投資の評価方法が英文目論見書もしくはサブ・ファンドの補遺において明確に開示されている場合および当該投資対象の価格の透明性を確保する適切な方法が取られている場合は、当該投資対象の取得を妨げないものとします。）。</p> <p>(c) 自己取引を行い、または本人としての管理会社の取締役と取引を行うこと。</p> <p>(d) 管理会社または受益者以外の第三者の利益を図る目的での取引を含む（ただし、これらに限られません。）受益者の利益を害し、またはサブ・ファンドの資産の適切な運用に反する取引を行うこと。</p> <p>(e) 空売りの結果、サブ・ファンドの計算において空売りされる有価証券の市場価額の総額が当該空売りの直後に純資産価額を超える場合において、空売りを行うこと。</p> <p>(f) 後記「借入れ」の項に記載の借入制限に従わずに、借入れを行うこと。</p> <p>(g) 一の発行体の株式または一の投資信託の受益証券について、その保有の結果として、一の発行体の当該株式または受益証券の価額（以下「株式等エクスポージャー」といいます。）が純資産価額の10パーセントを超えることとなる場合において（当該株式等エクスポージャーは、日本証券業協会のガイダンスに従い計算されます。）、当該株式または受益証券を保有すること。</p> <p>(h) 一の取引相手方とのデリバティブのポジションまたはデリバティブ取引の原資産である一の発行体に係るデリバティブのポジションについて、その保有の結果として、当該取引相手方または当該デリバティブのポジションに係る発行体に対して生じる純エクスポージャー（以下「デリバティブ等エクスポージャー」といいます。）が純資産価額の10パーセントを超えることとなる場合において（当該デリバティブ等エクスポージャーは、日本証券業協会のガイダンスに従い計算されます。）、当該デリバティブのポジションを保有すること。（注：当該デリバティブ取引のもと、取引相手方の債務に担保が設定されまたは証拠金が差し入れられている場合、当該担保または証拠金の評価額は控除することができます。）</p> <p>(i) 一つの主体により発行され、組成され、または引き受けられた、(i) 有価証券（上記（g）に定める株式または受益証券を除きます。）、(ii) 金銭債権（上記（h）に定めるデリバティブを除きます。）および（iii）匿名組合出資持分について、その総額（以下「債券等エクスポージャー」といいます。）が純資産価額の10パーセントを超えることとなる場合において（当該債券等エクスポージャーは、日本証券業協会のガイダンスに従い計算されます。）、当該（i）有価証券、（ii）金銭債権および（iii）匿名組合出資持分を保有すること。（注：担保付取引の場合は、担保評価額を控除することができ、当該主体に対するサブ・ファンドの負う支払債務が存在する場合は、支払債務額を控除することができます。）</p> <p>(j) 一つの主体に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの総額が純資産価額の20パーセントを超えることとなる場合において、当該主体に対するポジションを保有すること。</p> <p>管理会社は、サブ・ファンドの計算において、デリバティブ取引から生じるリスクを十分に把握する過程において管理会社により実施されるリスク管理手続である、規制を受けている金融商品取引業者の自己資本比率規制において定められる標準的方式の「市場リスク相当額」の算出方法を参考に用いた未決済のデリバティブ取引またはその他の類似の取引のリスク量が、純資産価額の80パーセント以内となるように確保します。以上の規定の目的において、標準的方式および「自己資本比率規制」とは、それぞれ日本の金融庁の規則に定める意味を有します。</p> <p>前記（g）から（j）までの投資制限に基づく発行体集中およびカウンターパーティー・エクスポージャーのリスクを計算する目的において、サブ・ファンドが集団投資事業体および／または証券化商品に直接投資する場合、かつ、それらそれぞれの発行体および／またはビークルの資産が固有資産または当該発行体および／もしくはビークルが保有し、これらの集団投資事業体および／もしくは証券化商品に帰属しないその他の資産から分離されており、かつ、当該発行体および／またはビークルが倒産隔離の団体である場合、当該集団投資事業体および／または証券化商品の裏付資産に対するサブ・ファンドの間接的なポジションのエクスポージャーは、エクスポージャーを算定する際にロック・スルーすることができます。</p> <p><b>借入れ</b></p> <p>管理会社および／またはその委託先は、借入残高の総額が純資産価額の10パーセントを超える結果とはならないことを条件として、サブ・ファンドの計算において金銭を借り入れることができます。ただし、サブ・ファンドが他のサブ・ファンド、投資ファンドまたは他の種類の集団投資スキームとの併合を含む（ただし、これらに限られません。）特別な状況において、12か月を超えない期間で一時的に制限を超える場合はこの限りではありません。</p>
<p>分 配 方 針</p>	<p>サブ・ファンドが相当の分配可能な利益を有することは想定されていません。</p>

## I. ファンドの設定から前期までの運用の経過

第1期：2019年3月29日（運用開始日）から2019年12月31日

### 投資環境について

当期中、米中貿易摩擦および交渉妥結に向けた期待感が取り沙汰され、米国のベンチマークに牽引され株式は年のほとんどの期間にわたり、上昇基調を維持しました。年末にかけて、各国・地域の中央銀行が米中間貿易交渉の第1段階の合意発表まで様子見姿勢を取ったことから、金融緩和策が一時中断する局面がありました。

### 1口当たり純資産価格の主な変動要因

株式は、米国の概ね堅調な経済統計および米国の利下げや欧州の景気刺激策など主要な中央銀行の金融緩和策に下支えされました。当期中、金と原油価格が地政学的懸念、米国・イラン間の緊張および度々起きた米ドル安などを背景に上昇したことを受けて、商品価格も0.75パーセント上昇し、リターンに貢献しました。債券について見ると、利回りが年末にかけて上昇し、投資家のリスク・オンの動きを受けてほとんどの国債利回りについて長短金利差がスティープ化しました。

2019年12月31日に終了した当期の米ドル建て受益証券のリターンは、0.64パーセントでした。なおこのリターンは、年率計算していません。

2019年12月31日に終了した当期の豪ドル建て受益証券のリターンは、1.36パーセントでした。なおこのリターンは、年率計算していません。

## 第2期：2020年1月1日から2020年12月31日

### 投資環境について

新型コロナウイルスのパンデミック発生で、年初に感染防止のため各経済圏がロックダウンを行ったことを受けて、世界の資産クラスは急落しました。米国に牽引された世界の株式市場でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大が最大の世界的健康危機に進展し、世界経済の縮小を引き起こしたことから、過去最長の強気相場は終焉を迎えました。投資家がパンデミックの拡大による世界的な景気後退予想で需要の急減を見込んだため、コモディティ価格は下落して当期末を迎えました。春に歴史的に急激ではあっても短期的な景気後退がありましたが、米国を含む多くの主要経済圏は、景気回復の初期局面に入りました。市場は、新型コロナウイルス・ワクチンの承認および接種開始により、世界的パンデミックとそれに伴う経済への影響が終息するとの期待感から上昇しました。

### 1口当たり純資産価格の主な変動要因

米ドル安に加えて、各国がワクチン接種を開始したことを受けてパンデミック終息に対する期待感を背景とするリスク志向は、コモディティ価格を押し上げました。債券については、投資家が主要中央銀行による金融緩和策および優勢なリスク志向を重視したことから、主要経済圏の利回りはおおむね一定範囲内で推移し続けました。

2020年12月31日に終了した当期の米ドル建て受益証券のリターンは、2.31パーセントでした。米ドル建て安定運用部分のリターンは5.16パーセントで、積極運用部分のリターンは-2.82パーセントでした。

2020年12月31日に終了した当期の豪ドル建て受益証券のリターンは、2.39パーセントでした。豪ドル建て安定運用部分のリターンは3.57パーセントで、積極運用部分のリターンは-1.14パーセントでした。

積極運用部分が冴えない展開となった主たる原因は、2020年第1四半期における欧州株式および新興国株式の下落が主要因であり、当時本インデックスが主にコアアセットに配分していたことによります。その後の2020年3月末に、本インデックスは、すべての配分をリザーブアセットに切り替えました。2020年の年末にかけて、本インデックスは、すべての配分がコアアセットに切り替わる状態に復帰しました。ECBによる新たな緩和策および米国の財政案の可決を投資家が重視したことを受けて相場は上昇し、および株式の好調なパフォーマンスの恩恵を受け、本インデックスは年初来からの損失の一部を回収することができました。

## 第3期：2021年1月1日から2021年12月31日

### 投資環境について

世界経済が引き続き新型コロナウイルスのパンデミックによる影響に対処したことを受けて、2021年は、調整と回復という重大な1年になりました。世界の株式は、財政・金融緩和策、ワクチン接種開始および好調な企業決算を背景に2021年上半期に米国株に牽引されて上昇しました。原油は、供給ひっ迫に加えて、供給量が比例的に増加しないまま需要がパンデミック前の水準に達したことを背景に、2年ぶりの高値に上昇しました。

### 1口当たり純資産価格の主な変動要因

エネルギー価格の上昇がインフレの重しとなったことを受けて、リスク・センチメントが揺れ動く中、世界の国債市場は、変動しながら低調に推移しました。市場参加者がインフレ期待がより固定化し、かつ、一時的なものではなくなるとの見方をとったため、利回りは利上げを見込んでフラット化しました。当年を通じて円安が進行し、年末には1米ドル=115円台で終了しました。

2021年12月31日に終了した当期に関して、米ドル建て受益証券のリターンは、-0.66パーセントで、豪ドル建て受益証券のリターンは、-0.06パーセントでした。米ドル建て受益証券について、安定運用部分のリターンは-1.22パーセントで、積極運用部分のリターンは0.63パーセントでした。豪ドル建て受益証券について、安定運用部分のリターンは-1.52パーセントで、積極運用部分のリターンは1.52パーセントでした。サブ・ファンドが保有する本債券は、低利回り環境下でサブ・ファンドのパフォーマンスにマイナス要因となりました。インデックスの戦略は、2021年第4四半期までコアアセットのエクスポージャーを100パーセントで維持してきましたが、同期間において徐々にリザーブアセットに切り替え、期末にはリザーブアセットへのエクスポージャーを100パーセントとしました。



## 第4期：2022年1月1日から2022年12月31日

### 投資環境について

2022年12月31日に終了した1年において、世界のリスク資産は、ロシアとウクライナ間の戦争や、米連邦準備制度理事会（Fed）および欧州中央銀行（ECB）を中心とする各主要中央銀行による金融引締政策が市場に下げ圧力をかけたことが響いて、世界的に軟調でした。

### 1口当たり純資産価格の主な変動要因

ロシアによるウクライナ侵攻がインフレ率の高騰を招き、約40年ぶりの高水準に達したことに伴いボラティリティが高まる中、国債価格は次第に値下がりしました。これを受けて、Fedは2018年以来の利上げとなった2022年3月の25ベースポイントを大幅に上回る50ベースポイント／75ベースポイントの利上げを行いました。Fedによる大幅利上げや欧州の景気後退見通しが高まった影響を受けて、ユーロが20年ぶりの低水準に下落し、米ドルに対するパリティ割れを試す展開となりました。ECBは9月の政策決定会合で、7月の50ベースポイントの利上げに続いて主要政策金利を75ベースポイント引き上げて、今後の追加利上げを示唆しました。これはエネルギー危機をきっかけにインフレ率が半世紀ぶりの高水準に急騰したためで、イールドカーブが全年限で上昇し、ユーロドルがパリティに近づきました。米国のFedは超タカ派姿勢を維持し、9月の米連邦公開市場委員会（FOMC）で75ベースポイントの追加利上げを行いました。株式市場は第4四半期に上昇して激動の1年を終えました。アジア株式が中国のゼロコロナ政策の緩和を受けて値上がりし、新興国の株式や欧州株式も、米ドル安を支えに、中央銀行の利上げペースが鈍化して景気後退が和らぐとの楽観論に後押しされ、力強いリターンを収めました。当期の円相場は対米ドルで軟調で、年末には1米ドル＝133.225円で終了しました。

2022年12月31日に終了した当期に関して、米ドル建て受益証券のリターンは、-5.12パーセントで、豪ドル建て受益証券のリターンは、-4.21パーセントでした。米ドル建て受益証券について、安定運用部分のリターンは-3.50パーセントで、積極運用部分のリターンは-1.55パーセントでした。豪ドル建て受益証券について、安定運用部分のリターンは-2.31パーセントで、積極運用部分のリターンは-1.83パーセントでした。インデックスの戦略は、2022年末2か月前までリザーブアセットのエクスポージャーを100パーセントで維持してきましたが、同期間においてコアアセットに切り替え、期末には米ドル建て受益証券および豪ドル建て受益証券それぞれに関して、コアアセットへのエクスポージャーを50パーセントおよび100パーセントとしました。

## II. 運用の経過等

### (1) 当期の運用経過および今後の運用方針

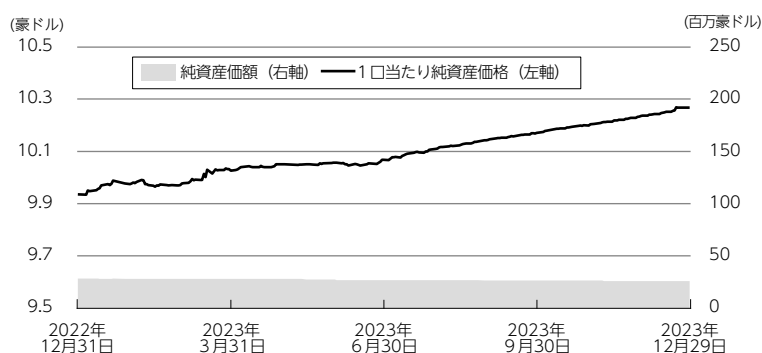
#### ■ 1口当たり純資産価格等の推移について

##### <米ドル建て受益証券>



第4期末の1口当たり純資産価格：	9.704米ドル
第5期末の1口当たり純資産価格：	10.13047米ドル (分配金額：該当事項はありません。)
騰落率：	4.39%

##### <豪ドル建て受益証券>



第4期末の1口当たり純資産価格：	9.935豪ドル
第5期末の1口当たり純資産価格：	10.26766豪ドル (分配金額：該当事項はありません。)
騰落率：	3.35%

- (注1) 騰落率は、税引き前の分配金を再投資したものとみなして計算しています。以下同じです。なお、サブ・ファンドに分配金の支払実績はありません。
- (注2) サブ・ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益を示すものではありません。
- (注3) サブ・ファンドにベンチマークは設定されていません。
- (注4) 第5期末の純資産価額および1口当たり純資産価格は、財務書類と異なる基準時点で計算されているため、財務書類に記載の数値とは異なります。以下同じです。

## ■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

当期期初の株式市場は、クレディ・スイスの経営破綻が響いて下落しましたが、その後に行われた救済措置をきっかけに、市場は世界的に急反発しました。米連邦準備制度理事会（FRB）をはじめとする主要中央銀行が金融引締政策を終了すると市場参加者の観測が浮上したことで、リスク選好度は夏場に回復した一方、長期金利が徐々に上昇し、米国債10年物利回りが一時、世界金融危機以降の最高水準である5パーセントに迫るなど、9月から10月にかけて世界の株式市場に大きな下げ圧力がかかりました。

しかしながら、FRBが市場の意表を突いて、「今後も高い金利を維持する」としていた年度の見通しを完全に翻し、2024年の金利の下げ幅の予測を75ベースポイントとしたため、年度末の数か月間のリスク資産と国債は極めて堅調に推移しました。

コモディティ市場は原油の影響につられて低迷しました。金融機関を巡る混乱や、主要経済国の大幅な金融引締政策、高水準の在庫などを背景に、世界経済を巡る懸念が先行し原油価格に下げ圧力がかかりました。

年度の円相場は対米ドルで軟調で、年末時点で1米ドル=140.895円でした。

2023年12月29日に終了した当期に関して、米ドル建て受益証券のリターンは、4.39パーセントで、豪ドル建て受益証券のリターンは、3.35パーセントでした。米ドル建て受益証券について、安定運用部分のリターンは4.40パーセントで、積極運用部分のリターンは0.05パーセントでした。豪ドル建て受益証券について、安定運用部分のリターンは3.31パーセントで、積極運用部分のリターンは0.09パーセントでした。インデックスの戦略は、ルックバック・コールオプション満期日時点でリザーブアセット100パーセントでした。

## ■ 分配金について

該当事項はありません。

## ■ 投資環境について

2023年12月29日に終了した当期に関しては、米国の堅調な経済指標や「人工知能（AI）」銘柄の急騰に後押しされ、世界中でリスク資産が大幅に値上がりしました。利上げ基調の終了が近いとの市場の見方が優勢な中で、世界の金利は趨勢を維持しました。

## ■ ポートフォリオについて

サブ・ファンドの投資目的は、受益証券の各クラスの投資者に対して、次に掲げるものに連動するリターンを提供することでした。

(a) 満期日において、受益証券の各クラスの発行価格の100パーセントの目標リターン（本書において「目標償還水準」といいます。）を達成することを目指すポートフォリオ

(b) ルックバック・コールオプション取引を通じて、受益証券の各クラスの本インデックスに対するエクスポージャーを提供するポートフォリオ

受益証券の各クラスに関する目標償還水準を達成するために必要な最低金額が受益証券の各クラス

の安定運用部分に配分され、残余部分が受益証券の各クラスの積極運用部分に配分されることを目的として、受益証券の各クラスに関する積極運用部分と安定運用部分との間の配分は、サブ・ファンドの設定日の後、短期間に確定されました。

安定運用部分は、受益証券の各クラスに関連する本債券（すなわち、米ドル建て受益証券に関して米ドル建て債券および豪ドル建て受益証券に関して豪ドル建て債券であり、本書において「安定運用部分取引」という。）に対するエクスポージャーを提供することにより、満期日において受益証券の各クラスの目標償還水準を達成することを目指しています。アンサンブル・インベストメント・コーポレーション・エスエイ（本書において「債券発行会社」という。）は満期日より前の本債券の想定される償還価格よりも割り引かれた価格により各本債券を発行しました。各本債券は、満期日以前に満期の日を迎え、その満期の時に受益証券の当該クラスの目標償還水準を達成するように設計されています。

サブ・ファンドは、受益証券の各クラスの計算において、関連する安定運用部分取引の条件に基づいて毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる、個別の債券（米ドル建て債券に関して米ドル、豪ドル建て債券に関して豪ドル）の想定元本の年率約0.77パーセントの利息を受領し、かかる利息は、サブ・ファンドに関連する一定の運営の経費および費用を決済するために用いられます。

積極運用部分は、受益証券の各クラスの投資者に対して、ルックバック・コールオプション取引を通じて、受益証券の関連するクラスに対して適用あるインデックスに対するエクスポージャーを提供します。

本インデックスによって適用される規則および方法は、次に掲げるものを除き、互いに実質的に同一です。すなわち、米ドル建てインデックスが米ドルで表示され、および豪ドル建てインデックスが豪ドルで表示されることから、適用あるクラス基準通貨と関連するクラス基準通貨以外の通貨建てのコアアセットおよびリザーブアセットの構成銘柄との間のヘッジ取引は、米ドル建てインデックスと豪ドル建てインデックスでは、異なる運用となります。

## ■投資の対象とする有価証券の主な銘柄

該当事項はありません。

## ■投資の対象とするデリバティブ取引に係る権利の主な種類

該当事項はありません。

## ■今後の運用方針

サブ・ファンドは2023年12月29日に償還いたしました。

## (2) 費用の明細

項目	項目の概要	
受託会社の報酬	受託会社は、サブ・ファンドの信託財産から、毎日計算され、発生し、四半期毎に後払いで支払われる、年間15,000米ドルの受託報酬を受領する権利を有します。	サブ・ファンドの受託業務およびこれに付随する業務
管理会社の報酬	管理会社は、サブ・ファンドの信託財産から、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.11パーセントの管理会社報酬を受領する権利を有します。かかる報酬は、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われます。	サブ・ファンド資産の運用管理、受益証券の発行、買戻し業務
管理事務代行会社および保管会社の報酬	管理事務代行会社および保管会社は、サブ・ファンドの信託財産から、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.12パーセントの管理事務代行および保管に係る報酬を受領する権利を有します。かかる報酬は、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われます。	サブ・ファンド資産の管理事務代行業務 受益証券の発行、譲渡および買戻しに関する登録名義書換事務 サブ・ファンド資産の保管業務
代行協会の報酬	代行協会員は、サブ・ファンドの信託財産から、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.01パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有します。かかる報酬は、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われます。	目論見書の配布、受益証券1口当たり純資産価格の公表、運用報告書等の文書の販売会社への送付等の業務
販売会社の報酬	販売会社は、サブ・ファンドの信託財産から、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.53パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有します。かかる報酬は、毎日計算され、発生し、毎月後払いで支払われます。	日本における受益証券の販売業務、購入・買戻しの取次ぎ業務、運用報告書の交付等購入後の情報提供業務、およびこれらに付随する業務
インデックス 想定費用および 控除率	各インデックス水準は、次に掲げるものに伴う控除率、想定取引および複製の費用を控除したものです（かかる想定取引および複製の費用の詳細については、請求目論見書をご参照ください）。 (a) 関連する本インデックスの個別の構成銘柄の比率および水準。 (b) 潜在的には週次によるコアアセットまたはリザーブアセットに対するエクスポージャー（すなわち、シグナルの変化の結果によるコアアセットとリザーブアセットとの間のエクスポージャーの再配分に伴う想定費用）の変動。 (c) 潜在的には日次による関連する各本インデックスのリスク・オンオフ水準に対するエクスポージャーのポラリティリティ目標メカニズム。 (d) 先物である関連する本インデックスの構成銘柄の入れ替え。 (e) コアアセットおよびリザーブアセットにおける固定比率への構成銘柄の月次再設定。 実務上可能である場合は常に、想定取引および複製の費用の予定される変更が効力を生ずる前に、受益者は、事前の書面による通知を受けます。	
控除率	年率0.5%	
本債券費用	サブ・ファンドは、各米ドル債券および豪ドル債券について生じる以下から構成される費用を、間接的に負担します。 (i) 法律、受託者および担保管理について約4万米ドルの費用 (ii) 保管費用として本債券に適用される、受益証券の当該クラスに適用ある安定運用部分に配分される受益証券の関連するクラスに帰属すべき純資産価額の年率0.012パーセントの費用 これらの費用は本債券の価額から課されおよび控除され、サブ・ファンド外において課される別個の費用ではありません。	
その他の費用・ 手数料（当期）	0.07%	印刷・発行費用、専門家報酬、弁護士報酬、保護預り手数料、取引費用、清算費用

(注) 各報酬については、有価証券報告書に記載の料率および金額を記載しています。「その他の費用・手数料（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用・手数料等の金額をサブ・ファンドの当期末の純資産価額で除した値の百分率による比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

### Ⅲ. 直近10期の運用実績

#### (1) 純資産の推移

下記会計年度末および第5会計年度中における各月末の純資産の推移は、以下のとおりです。

<米ドル建て受益証券>

	純資産価額		1口当たり純資産価格	
	(米ドル)	(千円)	(米ドル)	(円)
第1会計年度末 (2019年12月末日)	221,102,214.63	34,690,937	10.064	1,579
第2会計年度末 (2020年12月末日)	183,828,220.19	28,842,648	10.296	1,615
第3会計年度末 (2021年12月末日)	122,430,183.28	19,209,296	10.228	1,605
第4会計年度末 (2022年12月末日)	88,925,051.73	13,952,341	9.704	1,523
第5会計年度末 (2023年12月29日)	82,788,877.95	12,989,575	10.13047	1,589
2023年1月末日	89,082,035.04	13,976,971	9.743	1,529
2月末日	88,984,203.52	13,961,622	9.745	1,529
3月末日	88,910,503.61	13,950,058	9.808	1,539
4月末日	88,666,248.30	13,911,734	9.827	1,542
5月末日	88,587,405.06	13,899,364	9.849	1,545
6月末日	86,892,343.75	13,633,409	9.889	1,552
7月末日	86,432,320.04	13,561,231	9.927	1,558
8月末日	85,633,212.39	13,435,851	9.967	1,564
9月末日	84,968,273.98	13,331,522	10.005	1,570
10月末日	85,079,500.34	13,348,974	10.051	1,577
11月末日	84,509,035.66	13,259,468	10.091	1,583
12月29日	82,788,877.95	12,989,575	10.13047	1,589

(注1) 上記の2023年12月29日現在の純資産価額および1口当たり純資産価格は、財務書類と異なる基準時点で計算されているため、財務書類に記載の数値とは異なります。

(注2) 償還日において、8,172,263.337口が純資産価額82,788,877.95米ドルまたは1口当たり純資産価格10.13047米ドルで強制的に買い戻されました。

<豪ドル建て受益証券>

	純資産価額		1口当たり純資産価格	
	(豪ドル)	(千円)	(豪ドル)	(円)
第1会計年度末 (2019年12月末日)	67,871,498.99	6,988,050	10.136	1,044
第2会計年度末 (2020年12月末日)	56,364,791.10	5,803,319	10.378	1,069
第3会計年度末 (2021年12月末日)	35,719,242.26	3,677,653	10.372	1,068
第4会計年度末 (2022年12月末日)	28,069,401.52	2,890,026	9.935	1,023
第5会計年度末 (2023年12月29日)	25,724,822.71	2,648,628	10.26766	1,057
2023年1月末日	27,916,434.24	2,874,276	9.977	1,027
2月末日	27,872,920.62	2,869,796	9.969	1,026
3月末日	28,003,643.15	2,883,255	10.026	1,032
4月末日	27,784,314.52	2,860,673	10.050	1,035
5月末日	27,191,021.15	2,799,588	10.056	1,035
6月末日	26,763,861.48	2,755,607	10.068	1,037
7月末日	26,784,954.31	2,757,779	10.109	1,041
8月末日	26,370,442.47	2,715,101	10.144	1,044
9月末日	26,269,247.06	2,704,682	10.170	1,047
10月末日	26,320,201.19	2,709,928	10.204	1,051
11月末日	25,769,805.48	2,653,259	10.235	1,054
12月29日	25,724,822.71	2,648,628	10.26766	1,057

(注1) 上記の2023年12月29日現在の純資産価額および1口当たり純資産価格は、財務書類と異なる基準時点で計算されているため、財務書類に記載の数値とは異なります。

(注2) 償還日において、2,505,422.390口が純資産価額25,724,822.71豪ドルまたは1口当たり純資産価格10.26766豪ドルで強制的に買い戻されました。

## (2) 分配の推移

該当事項はありません。

### (3) 販売及び買戻しの実績

下記会計年度における販売および買戻しの実績ならびに下記会計年度末日現在の発行済口数は、以下のとおりです。

#### <米ドル建て受益証券>

	販売口数	買戻口数	発行済口数
第1会計年度	22,959,898.235 (22,959,898.235)	989,738.195 (989,738.195)	21,970,160.040 (21,970,160.040)
第2会計年度	0.000 (0.000)	4,115,642.682 (4,115,642.682)	17,854,517.358 (17,854,517.358)
第3会計年度	0.000 (0.000)	5,884,089.483 (5,884,089.483)	11,970,427.875 (11,970,427.875)
第4会計年度	0.000 (0.000)	2,807,007.790 (2,807,007.790)	9,163,420.085 (9,163,420.085)
第5会計年度	0.000 (0.000)	991,156.748 (991,156.748)	8,172,263.337 (8,172,263.337)

#### <豪ドル建て受益証券>

	販売口数	買戻口数	発行済口数
第1会計年度	6,862,331.455 (6,862,331.455)	166,143.032 (166,143.032)	6,696,188.423 (6,696,188.423)
第2会計年度	0.000 (0.000)	1,264,748.532 (1,264,748.532)	5,431,439.891 (5,431,439.891)
第3会計年度	0.000 (0.000)	1,987,517.573 (1,987,517.573)	3,443,922.318 (3,443,922.318)
第4会計年度	0.000 (0.000)	618,629.965 (618,629.965)	2,825,292.353 (2,825,292.353)
第5会計年度	0.000 (0.000)	319,869.963 (319,869.963)	2,505,422.390 (2,505,422.390)

(注1) 括弧内の数字は、本邦内における販売口数、買戻口数および発行済口数を表します。

(注2) 上記の第5会計年度の数値は、財務書類と異なる基準時点で計算されているため、財務書類に記載の数値とは異なります。



## IV. ファンドの経理状況

### 財務諸表

- a. ファンドの2023年1月1日から2023年12月29日（償還日）の日本文の財務書類は、ルクセンブルグにおける諸法令および一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠して作成された原文の財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第328条第5項ただし書の規定の適用によるものである。
- b. ファンドの原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）であるケーピーエムジーエルエルピーから監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含む。）が当該財務書類に添付されている。
- c. ファンドの原文の財務書類は、米ドルまたは豪ドルで表示されている。日本文の財務書類には、主要な金額について2024年4月30日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル=156.90円、1豪ドル=102.96円）で換算された円換算額が併記されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。円換算額は、四捨五入のため合計欄の数値が総額と一致しない場合がある。
- d. ファンドの年次財務書類は、原文（英語版）のみが監査され、監査報告書が参照しているのは原文（英語版）のみである。年次財務書類および監査報告書がその他の言語に翻訳される場合、ファンドの受託会社および管理会社が年次財務書類および監査報告書の訳文の正確性に責任を負う。翻訳された年次財務書類および監査報告書には、ケーピーエムジーのブランドは含まれず、ケーピーエムジーの署名も含まれない。

## 独立監査人の監査報告書

受託会社御中

### 監査意見

我々は、レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストのサブ・ファンドである償還時目標設定型ファンド1903（以下「サブ・ファンド」という。）の2023年12月29日（償還日）現在の純資産計算書、2023年1月1日から2023年12月29日（償還日）までの期間の損益および純資産変動計算書ならびに重要な会計方針その他の説明情報で構成される注記で構成される財務書類について監査を行った。

我々の意見では、添付の財務書類は、ルクセンブルグにおいて投資信託に適用される一般に認められた会計原則に準拠して、サブ・ファンドの2023年12月29日（償還日）現在の財務状態ならびに2023年1月1日から2023年12月29日（償還日）までの期間の運用実績および純資産の変動について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 意見の根拠

我々は、国際監査基準（以下「ISA s」という。）に準拠して監査を行った。当該基準の下での我々の責任については、本報告書中の「財務書類の監査に関する監査人の責任」の項において詳述されている。我々は、ケイマン諸島における財務書類の監査に関連する倫理上の要件とともに国際会計士倫理基準審議会の職業会計士の国際倫理規程（国際独立性基準を含む。）（以下「IESBA規程」という。）に従ってサブ・ファンドから独立した立場にあり、我々はこれらの要件およびIESBA規程に従って他の倫理的な義務も果たしている。我々は、我々が入手した監査証拠が監査意見表明のための基礎を提供するのに十分かつ適切であると判断している。

### 強調事項

我々は、本財務書類の注記2.1に注意を喚起する。当該注記には、受託会社が管理会社と協議の上、2023年12月29日（償還日）付でサブ・ファンドを清算することを決議したため、財務書類を作成する継続企業的前提が使用されていないことが記載されている。我々の意見は、本事項に関して修正されるものではない。

### その他の事項

サブ・ファンドは、その財務書類および我々の監査報告書を英語から日本語に翻訳することがある。我々は翻訳に関する手続きに関与していない。財務書類および我々の監査報告書の英語版と日本語版との間に相違がある場合、英語版が優先する。

### その他の情報

経営陣は、5ページから7ページ（訳注：原文のページ）に含まれる一般情報、14ページ（訳注：原文のページ）に含まれる統計情報（財務書類およびそれに対する我々の監査報告書は含まれない）に関して責任を負う。

財務書類に対する我々の意見は、その他の情報を対象としておらず、我々は、その他の情報に対していかなる形式の結論の保証も表明しない。

財務書類の監査に関する我々の責任は、その他の情報を精読し、その過程で、その他の情報が、財務書類もしくは我々が監査で入手した知識と著しく矛盾していないか、または重要な虚偽表示があると思われるかについて検討することである。我々が実施した調査に基づき、その他の情報に重要な虚偽表示があるという結論に達した場合、我々はその事実を報告する義務がある。この点に関し、我々に報告すべき事項はない。

#### *財務書類に対する経営陣および統治責任者の責任*

経営陣は、ルクセンブルグにおいて投資信託に適用される一般に認められた会計原則に準拠して当財務書類の作成および適正な表示ならびに不正または誤謬のいずれに起因するかを問わず、重要な虚偽表示がない財務書類を作成するために必要であると経営陣が決定する内部統制に関して責任を負う。

財務書類の作成において、経営陣は、サブ・ファンドが継続企業として存続する能力を評価し、それが適用される場合には、経営陣がサブ・ファンドの清算もしくは運用の中止を意図している、または現実的にそれ以外の選択肢がない場合を除き、継続企業の前提に関する事象を適宜開示し、継続企業の会計基準を使用する責任を負う。

統治責任者は、サブ・ファンドの財務報告プロセスの監督に責任を負う。

#### *財務書類の監査に関する監査人の責任*

我々の目的は、不正または誤謬のいずれに起因するかを問わず、財務書類に全体として重要な虚偽表示がないかどうかにつき合理的な保証を得ることおよび監査意見を含む報告書を発行することである。合理的な保証は高度な水準の保証ではあるが、I S A s に準拠して行われる監査が重要な虚偽表示を常に発見することを保証するものではない。虚偽表示は、不正または誤謬により生じることがあり、虚偽表示は、単独でまたは全体として、当該財務書類に基づく利用者の経済的意思決定に影響を及ぼすことが合理的に予想される場合に、重要とみなされる。

I S A s に準拠した監査の一環として、監査中、我々は専門的判断を下し、職業的懐疑心を保っている。また、以下も実行する。

- 不正または誤謬のいずれに起因するかを問わず、財務書類の重要な虚偽表示のリスクを認識および評価し、それらのリスクに対応する監査手続を策定および実行し、ならびに我々の監査意見表明のための基礎として十分かつ適切な監査証拠を得る。不正による重要な虚偽表示は、共謀、偽造、意図的な不作為、不正表示または内部統制の無効化によることがあるため、誤謬による重要な虚偽表示に比べて、見逃すリスクはより高い。
- サブ・ファンドの内部統制の有効性についての意見を表明するためではなく、状況に適した監査手続を策定するために、監査に関する内部統制についての知識を得る。
- 使用される会計方針の適切性ならびにサブ・ファンドの経営陣が行った会計上の見積りおよび関連する開示の合理性を評価する。

一経営陣が継続企業の前提の会計基準を採用した適切性および、入手した監査証拠に基づき、サブ・ファンドが継続企業として存続する能力に重大な疑義を生じさせる可能性のある事象または状況に関連する重要な不確実性の有無について結論を下す。重要な不確実性が存在するという結論に達した場合、我々は、当監査報告書において、財務書類における関連する開示に対して注意喚起し、当該開示が不十分であった場合は、監査意見を修正する義務がある。我々の結論は、当監査報告書の日付までに入手した監査証拠に基づく。しかし、将来の事象または状況が、サブ・ファンドが継続企業として存続しなくなる原因となることがある。

一開示を含む財務書類の全体的な表示、構成および内容について評価し、ならびに財務書類が適正な表示を実現する方法で対象となる取引および事象を表示しているかについて評価する。

我々は統治責任者に、特に、計画した監査の範囲および実施時期ならびに我々が監査中に特定した内部統制における重大な不備を含む重大な監査所見に関して報告する。

ケーピーエムジー

2024年6月11日



KPMG LLP  
P.O. Box 493  
SIX Cricket Square  
Grand Cayman KY1-1106  
Cayman Islands  
Tel +1 345 949 4800  
Fax +1 345 949 7164  
Web [www.kpmg.com/ky](http://www.kpmg.com/ky)

## **Independent Auditors' Report to the Trustee**

### ***Opinion***

We have audited the financial statements of Target Setting at Maturity Fund 1903 (the "Series Trust"), a series trust of Red Arc Global Investments (Cayman) Trust, which comprise the statement of net assets as at December 29, 2023 (Termination Date), the statement of operations and changes in net assets for the period from January 1, 2023 to December 29, 2023 (Termination Date), and notes, comprising significant accounting policies and other explanatory information.

In our opinion, the accompanying financial statements present fairly, in all material respects, the financial position of the Series Trust as at December 29, 2023 (Termination Date), and the results of its operations and changes in its net assets for the period from January 1, 2023 to December 29, 2023 (Termination Date) in accordance with generally accepted accounting principles applicable to investment funds in Luxembourg.

### ***Basis for Opinion***

We conducted our audit in accordance with International Standards on Auditing ("ISAs"). Our responsibilities under those standards are further described in the "Auditors' Responsibilities for the Audit of the Financial Statements" section of our report. We are independent of the Series Trust in accordance with International Ethics Standards Board for Accountants International Code of Ethics for Professional Accountants (including International Independence Standards) ("IESBA Code") together with the ethical requirements that are relevant to our audit of the financial statements in the Cayman Islands, and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with these requirements and the IESBA Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

### ***Emphasis of Matter***

We draw attention to Note 2.1 in the financial statements, which describes that the going concern basis of preparing the financial statements has not been used because, the Trustee, in consultation with the Manager, resolved to wind up the Series Trust on December 29, 2023 (Termination Date). Our opinion is not modified in respect of this matter.

### ***Other Matter***

The Series Trust may translate these financial statements and our auditors' report from English to Japanese. We have not been engaged to perform any procedures over the translation. In the event of any inconsistencies between the English and the Japanese versions of the financial statements and our auditors' report the English version shall prevail.

As of 1 October 2023, KPMG, which was constituted as a general partnership under the laws of the Cayman Islands, converted to a limited liability partnership registered in the Cayman Islands as KPMG LLP.

KPMG LLP, a Cayman Islands limited liability partnership and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved.

Document classification: KPMG Confidential



## **Independent Auditors' Report to the Trustee (continued)**

### ***Other Information***

Management is responsible for the other information. The other information comprises the General information on pages 5 to 7 and Statistical information on page 14, but does not include the financial statements and our auditors' report thereon.

Our opinion on the financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the financial statements or our knowledge obtained in the audit, or otherwise appears to be materially misstated. If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

### ***Responsibilities of Management and Those Charged with Governance for the Financial Statements***

Management is responsible for the preparation and fair presentation of the financial statements in accordance with generally accepted accounting principles applicable to investment funds in Luxembourg, and for such internal control as management determines is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the financial statements, management is responsible for assessing the Series Trust's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless management either intends to liquidate the Series Trust or to cease operations, or has no realistic alternative but to do so.

Those charged with governance are responsible for overseeing the Series Trust's financial reporting process.

### ***Auditors' Responsibilities for the Audit of the Financial Statements***

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditors' report that includes our opinion. Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with ISAs will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these financial statements.



**Independent Auditors' Report to the Trustee (continued)**

***Auditors' Responsibilities for the Audit of the Financial Statements (continued)***

As part of an audit in accordance with ISAs, we exercise professional judgment and maintain professional skepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations, or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances, but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Series Trust's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by management.
- Conclude on the appropriateness of management's use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Series Trust's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditors' report to the related disclosures in the financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditors' report. However, future events or conditions may cause the Series Trust to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the financial statements, including the disclosures, and whether the financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with those charged with governance regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

KPMG LLP

June 11, 2024

レッド・アーケ・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストー  
償還時目標設定型ファンド1903（償還済）  
純資産計算書  
2023年12月29日（償還日）現在

	注	米ドル		千円
<b>資産</b>				
銀行預金		117,451.45		18,428
<b>資産合計</b>		117,451.45		18,428
<b>負債</b>				
未払清算費用	9	50,553.74		7,932
未払販売会社報酬	8	42,102.55		6,606
未払管理会社報酬	6	8,738.95		1,371
未払管理事務代行会社報酬	4	6,353.68		997
未払受託報酬	3	3,749.98		588
未払保管会社報酬	5	3,177.66		499
未払弁護士報酬		1,124.99		177
未払代行協会員報酬	7	795.74		125
その他の未払費用		854.16		134
<b>負債合計</b>		117,451.45		18,428
<b>純資産合計</b>		—		—
<b>純資産価額</b>				
豪ドル建て受益証券		—		—
米ドル建て受益証券		—		—
<b>発行済受益証券口数</b>				
豪ドル建て受益証券		—		—
米ドル建て受益証券		—		—
<b>受益証券1口当たり純資産価格</b>				
豪ドル建て受益証券		—		—
米ドル建て受益証券		—		—

添付の注記は、本財務書類の一部である。



レッド・アーケ・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラスト  
償還時目標設定型ファンド1903（償還済）  
損益および純資産変動計算書

2023年1月1日から2023年12月29日（償還日）までの期間

	注	米ドル	千円
<b>収益</b>			
投資有価証券に係る受取利息	2.4	815,164.61	127,899
銀行利息		24,328.28	3,817
<b>収益合計</b>		<u>839,492.89</u>	<u>131,716</u>
<b>費用</b>			
販売会社報酬	8	558,164.86	87,576
管理会社報酬	6	115,845.04	18,176
管理事務代行会社報酬	4	84,250.91	13,219
清算費用	9	50,128.75	7,865
保管会社報酬	5	42,127.44	6,610
受託会社報酬	3	15,015.75	2,356
代行協会員報酬	7	10,532.65	1,653
保護預り手数料		8,928.59	1,401
弁護士報酬		6,517.96	1,023
印刷・発行費用		5,685.23	892
専門家報酬		2,461.07	386
取引費用		264.66	42
<b>費用合計</b>		<u>899,922.91</u>	<u>141,198</u>
<b>投資純損失</b>		<u>(60,430.02)</u>	<u>(9,481)</u>
<b>実現純損益</b>			
投資有価証券に係る利益	2.2	6,877,385.80	1,079,062
為替に係る利益	2.3	3,259.89	511
オプションに係る損失	2.2	(5,147,171.02)	(807,591)
<b>当期投資純損失および当期実現純利益合計</b>		<u>1,673,044.65</u>	<u>262,501</u>
<b>未実現純損益</b>			
オプションに係る評価益	2.2	5,214,692.30	818,185
投資有価証券に係る評価損	2.2	(2,564,931.41)	(402,438)
<b>運用による純資産の純増加額</b>		<u>4,322,805.54</u>	<u>678,248</u>
<b>資本の変動：</b>			
受益証券の買戻し		(112,331,004.68)	(17,624,735)
<b>資本の純変動額</b>		<u>(112,331,004.68)</u>	<u>(17,624,735)</u>
<b>純資産、期首</b>		<u>108,008,199.14</u>	<u>16,946,486</u>
<b>純資産、期末</b>		<u>—</u>	<u>—</u>

添付の注記は、本財務書類の一部である。

レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラスト  
償還時目標設定型ファンド1903（償還済）  
統計情報（未監査）

発行済受益証券口数、期末：	豪ドル建て受益証券	米ドル建て受益証券
2020年12月31日	5,431,439.891 口	17,854,517.358 口
2022年12月31日	2,825,292.353 口	9,163,420.085 口
買戻受益証券口数	(2,825,292.353) 口	(9,163,420.085) 口
2023年12月29日（償還日）*	— 口	— 口

純資産、期末：	豪ドル	千円	米ドル	千円
2021年12月31日	35,719,242.26	3,677,653	122,430,183.28	19,209,296
2022年12月31日	28,069,401.52	2,890,026	88,925,051.73	13,952,341
2023年12月29日（償還日）*	—	—	—	—

年度末時点の受益証券1口当たり

純資産価格：	豪ドル	円	米ドル	円
2021年12月31日	10.372	1,068	10.228	1,615
2022年12月31日	9.935	1,023	9.704	1,605
2023年12月29日（償還日）*	—	—	—	—

\* 償還日において、2,505,422.390口の豪ドル建て受益証券が、25,724,822.71豪ドルの純資産価額または受益証券1口当たり純資産価格10.26766豪ドルで強制的に買い戻された。償還日において、8,172,263.337口の米ドル建て受益証券が、82,788,877.95米ドルの純資産価額または受益証券1口当たり純資産価格10.13047米ドルで強制的に買い戻された。

レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン） トラストー

償還時目標設定型ファンド1903（償還済）

財務書類に対する注記

2023年12月29日（償還日）現在

注1. 活動

償還時目標設定型ファンド1903（以下「サブ・ファンド」という。）は、受託会社および管理会社の間で信託証書および2018年12月10日に締結された追補信託証書に基づき設定および設立されたトラストのサブ・ファンドである。サブ・ファンドは、2019年3月29日に当初の取得申込金を受け運用を開始した。

投資目的および方針

サブ・ファンドの投資目的は、受益証券の各クラスの投資者に対して、次に掲げるものに連動するリターンを提供することであった。

- (a) 満期日（\*）において、受益証券の各クラスの発行価格の100パーセントの目標リターン（以下「目標償還水準」という。）を達成することを目指すポートフォリオ（受益証券の各クラスに関して、以下「安定運用部分」という。）
  - (b) 受益証券の各クラスの本インデックスに対するエクスポージャーを提供するポートフォリオ（受益証券の各クラスに関して、以下「積極運用部分」という。）
- (\*) : 「満期日」とは、2023年12月29日（償還日）をいう。

受益証券の各クラスに関する目標償還水準を達成するために必要な最低金額が受益証券の各クラスの安定運用部分に配分され、残余部分が受益証券の各クラスの積極運用部分に配分されることを目的として、受益証券の各クラスに関する積極運用部分と安定運用部分との間の配分は、サブ・ファンドの設定日の後、短期間に確定された。

安定運用部分は、受益証券の各クラスに関連する本債券（すなわち、米ドル建て受益証券に関して米ドル建て債券および豪ドル建て受益証券に関して豪ドル建て債券であり、以下「安定運用部分取引」という。）に対するエクスポージャーを提供することにより、満期日において受益証券の各クラスの目標償還水準を達成することを目指している。アンサンブル・インベストメント・コーポレーション・エスエイ（以下「債券発行会社」という。）は満期日より前の本債券の想定される償還価格よりも割引かれた価格により各本債券を発行した。各本債券は、満期日以前に満期の日を迎え、その満期の時に受益証券の当該クラスの目標償還水準を達成するように設計されている。

サブ・ファンドは、受益証券の各クラスの計算において、関連する安定運用部分取引の条件に基づいて毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる、個別の債券（米ドル建て債券に関して米ドル、豪ドル建て債券に関して豪ドル）の想定元本の年率約0.77パーセントの利息を受領し、かかる利息は、サブ・ファンドに関連する一定の運営の経費および費用を決済するために用いられる。

積極運用部分は、受益証券の各クラスの投資者に対して、ルックバック・コール・オプション取引を通じて、受益証券の関連するクラスに対して適用あるインデックス（すなわち、米ドル建て受益証券に関してグローバル・マルチアセット米ドル建てVT5 シリーズ2 指数（以下「米ドル建てインデックス」という。）および豪ドル建て受益証券に関してグローバル・マルチアセット豪ドル建てVT5 シリーズ2

指数（以下「豪ドル建てインデックス」という。）（以下個別にまたは総称して「本インデックス」という。）に対するエクスポージャーを提供する。ルックバック・コール・オプションの取引相手方は、管理会社の関連当事者であるシティグループ・グローバル・マーケット・リミテッドであった。

本インデックスによって適用される規則および方法は、次に掲げるものを除き、互いに実質的に同一である。すなわち、米ドル建てインデックスが米ドルで表示され、および豪ドル建てインデックスが豪ドルで表示されることから、適用あるクラス基準通貨と関連するクラス基準通貨以外の通貨建てのコアアセットおよびリザーブアセットの構成銘柄との間のヘッジ取引は、米ドル建てインデックスと豪ドル建てインデックスでは、異なる運用となる。

償還日現在、サブ・ファンドは一切の投資を行っていない。

## 注2. 重要な会計方針

### 2.1 財務書類の表示

本財務書類は、ルクセンブルグにおいて投資ファンドに対して適用ある一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成されている。受託会社は、管理会社と協議の上、2023年12月29日付でサブ・ファンドを清算することを決議した。サブ・ファンドが2023年12月29日に償還したため、財務書類は非継続企業の前提で作成されている。資産は正味実現可能価額で計上され、負債は決済予定額で計上されている。

### 2.2 投資有価証券の評価

管理事務代行会社は、払込日および各評価日に、適用あるクラス基準通貨建てで受益証券1口当たり純資産価格を算定し、これを公表する。

受益証券1口当たり純資産価格は、純資産価額を発行済受益証券の口数で除すことにより算定される。受益証券1口当たり純資産価格は、（0.0005を切り上げる通常の四捨五入の方法に従い）小数第3位または管理会社が受託会社と協議の上決定するその他の位まで端数処理される。

純資産価額および受益証券1口当たり純資産価格の算定において、管理事務代行会社は、以下の評価方針および手続に従う。

- (a) 下記 (b) および (c) の規定に従い、証券取引所、商品取引所、先物取引所または店頭市場において上場され、相場付けされ、取引され、または取り扱われている投資対象の価額に基づくすべての計算は、管理事務代行会社により、当該計算が行われる日、または評価日が当該投資対象の主要な取引所の営業日でない場合は、評価日に先立つ当該取引所の直近の営業日の当該取引所の営業終了時点における、当該取引所におけるその現地の規則および慣行に基づく最終取引価格または公式終値を参照して行われる。特定の投資対象について証券取引所、商品取引所、先物取引所または店頭市場が存在しない場合、当該投資対象の価額は、当該投資対象のマーケット・メイクを行う者、会社または機関（および当該マーケット・メーカーが複数存在する場合には、管理会社が受託会社と協議の上指定する特定のマーケット・メーカー）により相場付けされた当該投資対象の最新の入手可能な価格を参照して計算される。ただし、常に、管理会社が受託会社と協議の上その裁量において、他の取引所における価格またはブルームバーグもしくはインタラクティブ・データ・コーポレーションを含む独立したデータ提供事業者により提供された価格の方が、あらゆる状況において、当該投資対象に関してより公正な評価基準を提供するものと判断した場合、管理会社は、当該価格の採用を指示することができる。

- (b) 上記 (a) の規定に従い最終取引価格、公式終値およびその他の価格相場を入手することができない場合には、関連する投資対象の価額は、管理会社が (受託会社と協議の上) 決定する方法で随時算定される。
- (c) 上記 (a) または (b) に従い投資対象の上場価格、相場価格、取引価格または市場取引価格を確認する目的において、管理事務代行会社は、機械化および/または電子化された価格配信システムにより提供された価格データおよび/または情報を利用し、それらに依拠することができ、かかるシステムにより提供された価格は、上記 (a) または (b) の目的上、最終取引価格、公式終値または最新の入手可能な価格とみなされる。
- (d) 短期金融市場の投資対象および銀行預金は、取得価額に経過利息を加えた額で評価される。
- (e) 機能通貨以外の通貨建ての投資対象の価額 (有価証券の価額であるか現金の価額であるかを問わない。) は管理事務代行会社が、関連するプレミアムまたはディスカウントおよび外国為替取引費用を考慮した上で当該状況において適切とみなす相場 (公式のものであるかその他のものであるかにかかわらず。) で機能通貨に換算されるものとする。
- (f) オプション取引およびその他の店頭デリバティブ取引/商品は、予想キャッシュ・フローの正味現在価値に基づき評価される。当該オプション取引または他の店頭デリバティブ取引/商品の計算代理人が取引相手方も務める場合、当該兼任に起因して生じる利益相反を回避するため、管理会社またはその受任者は、純資産価額の算定と同じかそれ以上の頻度で、当該評価に関する許容度チェックを実施する義務を負う。
- (g) 上記にかかわらず、管理会社は (受託会社と協議の上) 、他の評価方法の方が関連する投資対象の公正価値をより反映すると判断した場合、他の評価方法の利用を許可することができる。

## 2.3 外貨換算

サブ・ファンドの財務書類は米ドルで表示されている。受益証券のクラスは、米ドルおよび豪ドルで表示されている。

米ドル以外の通貨で表示されている資産および負債は、報告対象期間末時点の実勢為替相場で米ドルに換算される。外貨建取引は取引の日の実勢為替相場で米ドルに換算される。

外貨換算に係る未実現損益および実現損益は、報告対象期間の実績を算定する際に損益および純資産変動計算書において認識されている。

時価で評価したポートフォリオの評価から生じる未実現為替損益は、投資有価証券およびオプションに係る未実現評価損益の純変動に含まれる。投資有価証券およびオプションの売却から生じる実現為替損益は、投資有価証券およびオプションに係る実現損益に含まれる。その他の純為替損益は、損益および純資産変動計算書の為替に係る実現損益に含まれる。

## 2.4 投資有価証券に係る受取利息

受取利息は、毎日発生する。

### 注3. 受託報酬

サブ・ファンドの関連当事者である受託会社は、サブ・ファンドの信託財産より、年間15,000米ドルの受託報酬を受領する権利を有する。当該報酬は、毎日計算されて計上され、四半期毎に後払いで支払われた。

### 注4. 管理事務代行会社報酬

管理事務代行会社は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.08パーセントの管理事務代行会社報酬を受領する権利を有していた。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。計算金額は、受益証券の関連するクラスに適用ある発行価格に対して、計算時点における受益証券の関連するクラスの発行済受益証券口数を乗じたものをいう。

### 注5. 保管会社報酬

保管会社は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.04パーセントの保管会社報酬を受領する権利を有していた。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。

### 注6. 管理会社報酬

サブ・ファンドの関連当事者である管理会社は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.11パーセントの管理会社報酬を受領する権利を有していた。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。

### 注7. 代行協会員報酬

管理会社の関連当事者である代行協会員は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.01パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有していた。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。

### 注8. 販売会社報酬

販売会社は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.53パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有していた。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。

### 注9. 精算費用

サブ・ファンドの未払精算費用には、サブ・ファンドの償還に関連して発生した未払弁護士報酬、未払専門家報酬および未払印刷・発行費用が含まれる。

## 注10. 税金

### 10.1 ケイマン諸島

ケイマン諸島において収益または利益に課される税金はなく、またファンドは、ケイマン諸島の総督からファンドの設立日である2008年10月21日からの50年間、現地の法人税、利益税および資本税がすべて免除となる保証を受けている。したがって、法人税等引当金は本財務書類上に計上されていない。

### 10.2 その他の国々

サブ・ファンドは、他の国々を源泉とする特定の収益に対し源泉徴収税またはその他の税金を課されることがある。

## 注11. 為替相場

米ドルに対して使用された2023年12月29日現在の為替相場は、以下のとおりである。

通貨	為替相場
豪ドル	1.4660

## 注12. 保証および表明

サブ・ファンドは、何らの保証または表明も有していない。

## 注13. 当期中の重要な事象

サブ・ファンドは、ファンドの募集書類に記載された満期日に従い、償還した。

サブ・ファンドが保有する本債券は、2023年12月27日に25,096,237豪ドルおよび81,928,669米ドルで満期償還した。

受託会社は、管理会社と協議の上、2023年12月29日にサブ・ファンドを清算することを決議した。2023年12月29日に最終純資産価額25,724,822.71豪ドルおよび82,788,877.95米ドルで残存受益証券は強制的に買い戻された。

## 注14. 後発事象

サブ・ファンドは、本財務書類の作成にあたり、財務書類が発行可能な日付まで、本財務書類に調整および／または開示が必要な重要な後発事象はなかったと結論づけた。

## V. ファンドの投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託当初払込日	2019年3月29日
	投資信託契約終了日	2023年12月29日

### <米ドル建て受益証券>

投資信託契約終了時の状況	
資産総額	82,886,068.98米ドル
負債総額	97,191.03米ドル
純資産価額	82,788,877.95米ドル
受益権口数	8,172,263.337口
1口当たり償還金	10.13047米ドル

区分	投資信託当初払込時	投資信託契約終了時	差引増減
受益権口数	22,959,898.235口	8,172,263.337口	-14,787,634.898口
元本額	229,598,982.35米ドル	82,788,877.95米ドル	-146,810,104.40米ドル

各計算期間の状況					
計算期	期首純資産価額 (米ドル)	期末純資産価額 (米ドル)	1口当たり純資産価格 (米ドル)	1口当たり分配金	
				金額(米ドル)	分配率
第1期	229,598,982.35	221,102,214.63	10.064	-	-
第2期	221,102,214.63	183,828,220.19	10.296	-	-
第3期	183,828,220.19	122,430,183.28	10.228	-	-
第4期	122,430,183.28	88,925,051.73	9.704	-	-
第5期	88,925,051.73	82,788,877.95	10.13047	-	-
信託期間中の1口当たり総収益金および年平均収益率				0.13047	0.27%

(注1) 当初申込期間における1口当たり純資産価格は、10.000米ドルでした。

(注2) 上記の第5期の期末純資産価額および1口当たり純資産価格は、財務書類と異なる基準時点で計算されているため、財務書類に記載の数値とは異なります。



<豪ドル建て受益証券>

投資信託契約終了時の状況	
資産総額	25,754,524.50豪ドル
負債総額	29,701.79豪ドル
純資産価額	25,724,822.71豪ドル
受益権口数	2,505,422.390口
1口当たり償還金	10.26766豪ドル

区分	投資信託当初払込時	投資信託契約終了時	差引増減
受益権口数	6,862,331.455口	2,505,422.390口	-4,356,909.065口
元本額	68,623,314.55豪ドル	25,724,822.71豪ドル	-42,898,491.84豪ドル

毎計算期末の状況					
計算期	期首純資産価額 (豪ドル)	期末純資産価額 (豪ドル)	1口当たり純資産価格 (豪ドル)	1口当たり分配金	
				金額(豪ドル)	分配率
第1期	68,623,314.55	67,871,498.99	10.136	-	-
第2期	67,871,498.99	56,364,791.10	10.378	-	-
第3期	56,364,791.10	35,719,242.26	10.372	-	-
第4期	35,719,242.26	28,069,401.52	9.935	-	-
第5期	28,069,401.52	25,724,822.71	10.26766	-	-
信託期間中の1口当たり総収益金および年平均収益率				0.26766	0.56%

(注1) 当初申込期間における1口当たり純資産価格は、10.000豪ドルでした。

(注2) 上記の第5期の期末純資産価額および1口当たり純資産価格は、財務書類と異なる基準時点で計算されているため、財務書類に記載の数値とは異なります。

## VI. お知らせ

サブ・ファンドは2023年12月29日に償還いたしました。